



# 11月幼稚園だより

令和6年11月1日  
千代田区立番町幼稚園  
園長 中村 千絵

## 遊びの世界を広げる - 番町ラボの試み -



園長 中村 千絵

(番町幼稚園HP)

イタリアのレッジョ・エミリア市には、先進的な幼児教育と言われる「レッジョ・エミリア・アプローチ」という考え方があります。私は、実際にレッジョ・エミリアに行ったことはないのですが、考え方やその環境、方法が魅力的であり、何らか番町幼稚園の教育に取り入れることはできないかと考えていました。

そして、一昨年、ご縁があって、実際にレッジョ・エミリアで「アトリエスタ」として活動されていた津田純佳さんと知り合うことができ、相談に乗っていただき、子どもたちの遊びの世界をもっと広げる環境としてのアトリエ（番町幼稚園では「番町ラボ」という名称）の試みを昨年度から始めました。

日本でアトリエをつくる前に、私が大事だと思ったことを書いてみます。

キーワードで言うと、「冒険」と「美しさ」と「アイデンティティ」です。

まず、アトリエは子どもたちの好奇心や探究心が溢れた場所であるということです。

アトリエは何かをつくることを目的とする場所ではなく、さまざまな素材や道具を通して自分の気持ちや考えに向き合ったり、新しい発見を友達と驚いたり喜んだり、不思議な出来事や上手くいかないことをどのように乗り越えようかと試行錯誤する場所です。

津田純佳著「アトリエから子どもが見える レッジョ・エミリアの乳幼児教育」より

番町幼稚園の教育の根幹である遊びを豊かにするために、「アトリエ(番町ラボ)」で、どのような冒険や美しさが経験できるのか、津田さんと共に考え、活動を展開していきました。

### 今年度の番町ラボの活動

5歳児  
「自分の名前」からイメージを広げて、「色」で表現する。



3歳児  
遠足で拾った「お気に入りの木の葉」や園にある葉を描く。



4歳児  
絵の具との出会い。混色を楽しみながら、「自分の色」を作る。

番町ラボでの経験は、子どもたちだけでなく、私たち教員にも学びに溢れていました。絵を描くということは、対象物をよく知り、そこで感じたことを表現すること。色について考え、自分で作ってみて、試してという経験は、子どもたちに「色への思い」を育てるということ。表現を通して、世界を知り、自分を知っていくこと。

好きな遊びの中での表現にも、番町ラボでの経験が次々と生かされています。

番町ラボの取り組みは、まだ2年目。これからも続いていきます。

番町ラボは東京都の「とうきょうすくわくプログラム」の中の事業として、実施しています。



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん